

令和6年度第2回宗像市景観審議会議事録

開催日時：令和6年8月22日(木) 10:00～11:00

開催場所：宗像市役所2階 204会議室

出席者

委員 (■出席 □欠席)		
■◎日高 圭一郎	□○柴田 久	■大方 優子
□神島 亘	■長谷川 勝憲	□百崎 順二
■上野 紀昭	■野田 聖子	■吉井 勝敏
■梅田 芳徳	■諸麥 加奈子	
オブザーバー (■出席 □欠席)		
■福岡県文化振興課 九州国立博物館・世界遺産室 正田 実知彦		

◎印は会長、○印は副会長

1. 開会

2. 景観計画の変更について

○現計画の評価について

(事務局) 現計画の評価について説明

— 質疑応答 ・ 意見交換 —

・アンケート調査について、景観に対する満足度は急に上がるものではないことから、景観に対する市民の満足度は高いと評価して良い。可能であれば不満と回答した方のコメントや属性等を分析し、不満と回答した方を減らす方向性があれば、更に評価が高まると考える。また今後調査する機会があれば、観光の観点から、来訪者が宗像市の景観をどのように評価しているかを分析すると良いと考える。

・屋根形状については、費用や流行、太陽光設備設置の観点より差し掛け屋根や片流れ屋根が主要となっていることや、耐震や費用面より景観計画で推奨されている瓦葺の採用が減少している現状を踏まえ、現状の屋根に関する基準は、施主への負担が大きいと考える。差し掛け屋根や片流れ屋根の上に太陽光設備を設置する際の景観へ配慮しつつ、屋根形状について、検討が必要である。

(事務局) 社会情勢等による主要な屋根形状の変化は認識しているため、ご意見いただいた通り検討していきたい。

○課題と対応方針について

(事務局) 課題と対応方針について説明

— 質疑応答 ・ 意見交換 —

・景観形成基準による景観の誘導は進んでいるが、景観まちづくりに対する住民意識の醸成は追いついていないと感じるため、景観に対する住民意識の向上や共有を図るソフト面を推進すべきと考える。また今の時代は、変化を認めながら、重要な一部分を残すという手法で景観まちづくりを進めざるを得ないのではないかと思う。

(事務局) 現在の景観計画では、何を守るかよりも、規制に対する周知が先行しているため、守るべき景観と規制の関係を明確にしつつ計画を見直していきたい。また、住民意識を醸成する取り組みの推進については、今後の課題として、計画を運用する中で継続して検討していきたい。

(オブザーバー)

・世界遺産の保全には、文化財とその周辺一体の景観の保全が必要であるため、景観計画は世界遺産であり続けるために重要な計画であるが、市民に理解されづらい状況にある。世界遺産の保全と景観との関係について、景観計画にしっかりと位置付け、理解促進に繋げたい。

・景観資源の周辺を目立たなくする景観施策は、市民にわかりづらいため、宗像市が取り組んでいる良い取り組みを積極的に PR し、市民の理解を促進していく必要がある。

・屋根形状の検討にあたっては、屋根形状を緩和することによって生じる課題についても考慮し、課題解決となる別の手段を設けておくことも必要ではないか。

・世界遺産を守るために必要なルールは、住民に十分に理解されていないと感じる。世界遺産になった以上は、住民は守るべきことを理解すると思うので、必ず守るべきルールをもう少し明確にすべきだと考える。

(事務局) 景観計画の見直しにおいては、世界遺産を守るために必要なルールを明確にすることが重要だと考えるため、屋根形状の変化が景観に与える影響等について、今後検討していきたい。

○新景観計画について

(事務局) 新景観計画について説明

— 質疑応答 ・ 意見交換 —

・景観計画の普及の推進や計画の目的を明確に示すなど、市民にわかりやすい情報を継続的に提供する必要がある。

(事務局) 景観まちづくりの進め方、景観計画の周知のあり方等を検討し、計画推進の体制等を充実させる必要があると考えている。

・目次案は、一般的な構成となっており、現行案で良い。景観形成基準の方向性は屋根形状が中心的な課題になると思うが、国道 495 号沿いも今後議論していく必要がある。

(オブザーバー) 景観計画の取組みにより、どのように景観の向上が図られたのか、10 年間の実績を振り返ることも重要だと考える。

・世界遺産を保全する上で守るべきルールがあることは理解できるが、必ず守るべきルールを明確にし、宗像市の現状や方針を踏まえた独自のルールがあっても良いと考える。

(オブザーバー) 世界遺産を保全する世界共通のルールはない。それぞれの世界遺産の価値に基づいて、世界遺産と周辺景観を守るためのルールを定める必要がある。その結果の 1 つが景観計画であることから、屋根形状についても、議論を深めていきたい。景観の悪化が理由で世界遺産の登録が取消された事例もあるため、世界遺産の保全と市民の生活とのバランスを考慮しつつ、慎重に議論を進めていきたい。

— 総括 —

(会長) 現計画の評価については、景観に対する市民の満足度は高いと評価して良い。一方で不満と回答した人の分析を行い、不満度を下げる工夫が必要である。また、観光の観点から、来訪者が宗像市の景観をどのように評価しているかを分析するとよい。屋根形状については、今後慎重に議論していただきたい。課題と対応方針については、世界遺産を含め、景観に対する住民意識の共有ができていない状況ではないため、計画としても対応していく必要があり、市民にわかりやすい情報を継続的に提供する取組みが求められる。また、これまでの 10 年間の取組みを振り返ってみてはどうかというご意見があった。以上のご意見を踏まえ、事務局は作業を進めていただきたい。

3. その他

(事務局) 次回審議会の開催について説明

4. 閉会